

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所独自の理念を作り上げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自の理念を小冊子にまとめ、スタッフ全員に渡し、共有したケアが出来る様に努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関ホールに表示しており、入居時書面にて説明をしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・日常的に散歩に出かける時は近隣の人達と、挨拶を交わしたり、子供達と声をかけ合ったりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の行事には積極的に参加している(体育祭、地域フェスタ、宿場祭り、花祭り等)。年に2回地域小学校児童との交流会があり、時々自宅への帰路の途中で声をかけてくれたり、立ち寄ってくれる。・年1回ホームではばざーを行い、地域の人達との交流の場を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を2ヶ月/1回実施している、会議の中で民生委員や福祉委員の方より地域の情報を収集している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価を全スタッフで行う事で、新たなケアの気づきや見直し、チームケアのあり方を再確認している。		自己評価、外部評価の結果を踏まえ、ミーティングお行いサービスの質の向上に努める。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議では、事業所からの報告を行い、参加者から質問や、意見、要望を受け、サービスへつないでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市の担当者に運営推進会議への参加を依頼している、推進会議が始まった当初は参加されていたが、その後は不参加が続き包括センターのスタッフのみで、協力関係が築かれていない。 ・包括センターを通じて市の協力をお願いしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・先日成年後見制度を必要とする入居者がいた為、勉強会を実施した。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止関連法令の理解不足がある。 ・日常介護の中で虐待につながる様な事についてその都度話し合いを行なっている。		勉強会を行い、高齢者虐待防止関連法の理解を深められるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、おためし期間を設け(一週間～10日位)入居者、家族に施設での生活の様子を見て頂き、又施設は入居者が共同生活が可能かを確認し契約をしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者が家族やスタッフに不満等を訴えた時、本人やスタッフ、家族を交え話し合いをしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時や、状態が変化した時、病院受診や結果報告など、必要な時に報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に、苦情受け付け箱を設置している。 家族会を月/1回開催し意見を聞くようにしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日、昼食を共にしている、その時に話し合いを行っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・入居者の状況に合わせて勤務の調整を行っている、 ・夕方より不安定な入居者の為に13時～21時までの勤務者を増している。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニットを引戸一枚で仕切っている為、職員移動時に限らず、誰でも声掛けや、係りもち、コミュニケーションをとっている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>障害者を雇用している、能力に合った仕事をしてもらっている、又スタッフに対し障害を理解して貰う様、話合っている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権を尊重する為、リーダーを中心に教育を行っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>福岡県グループホーム協会に入会し、協会が企画する研修会に(初級、中級、リーダー)積極的に参加させている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会を通じ交流する機会がある</p>		<p>・隣接(筑前町)の施設と、キズ狩りや芋ほり等を一緒に行い交流を図っている。 ・福岡県認知症性高齢者G・H協会所属し各種研修に参加している</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>入居者一人の対応を、一人のスタッフが対応するのではなく、数人で対応する様に指導している(ストレス軽減)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>グループホーム協会や、社協が企画している研修会に積極的に参加させている。</p>		<p>職員、パートの給与が低賃金なので、介護報酬が上がり次第給与をアップさせたい。現在、国の施策の介護職員処遇改善交付金を申請中、12月の給与より実施取り組んでいる。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・事前に家族から、生活状態を確認している為、本人の口から、不安や、困っていることが、引き出せる様な雰囲気作りや言葉かけを行っている。</p> <p>・他の施設に入院、入所中は、スタッフが訪問し面談する様にしている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・相談の連絡があった時は、まず、家族にホームの見学に来て頂き、本人の状態や、家族の苦労を傾聴し、安心感をもってもらい、次回本人と一緒に来ていただく様にしている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容に応じ、その都度対応している。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・本人と家族に入居前、ホームを見学していただき、場の雰囲気を感じ取ってもらう様にしている。入居後、本人が序々にスタッフや、他の利用者に馴染めるように、家族にも来て頂き協力してもらっている。</p> <p>・入居後1週間は、体験入居の形を取っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・生活や作業び場で、人生の先輩である利用者から教えや知恵をいただいている。</p> <p>・昔の歌や踊りを利用者から教えてもらい、一緒に楽しんでいる。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族の面会時や電話にて近況報告をしたり、スタッフでは、支援出来ない問題が起きた時は、家族に相談し、協力して問題解決にあたっている。		・ホーム便りに職員紹介や、行事事など紹介をしている
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族に行事に参加していただき、一緒に楽しんでもらったり、利用者の思いや状況によっては、家族の協力を得て外出や外泊の機会を作ってもらっているようにしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・毎月の命日に、お寺に出かけていた利用者があり、継続して家族と一緒に外出をされている。生活習慣を尊重するようにしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・レクリエーションや、作業、散歩の時など、スタッフが間に入り、会話を多くし、利用者同志の関係が上手いく様に努めている。 コミュニケーションを取ることが苦手な利用者に対しては、スタッフと一緒に場に入り、徐々に慣れていけるような雰囲気作りをしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退去された家族に、行事の案内を出し、今でも、行事のボランティアで参加してくださる。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常の係りや会話の中で、本人の希望や意向の把握に努めている。 ・意思疎通が困難な場合は、家族から情報を得るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に本人や家族から聞き取りをしたり、前利用事業所や前入所施設から情報を得ようとしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・入居時、一人ひとりの一日の過ごし方や生活パターンの情報収集を行い、更に日々の生活の中で、総合的に把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人や家族から思いや意見を聞き、ケアプランに取り入れるようにしている。 ・日常の勤務の中でのスタッフ間で意見交換をし、担当者会議の中から介護計画を作成している。		・スタッフ全員での意見交換が出来ていない為、今後出来るように努力して行きます。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・認知症の進行や、病気、骨折等の入院による状態の変化時は、介護計画を見直している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別にファイルを用意し、バイタル、食事量、排泄や、一日の生活状況を記録し、申し送りで聞いたり、勤務前に記録に目を通し状態を把握している。 ・介護計画の見直しにも活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・週に一回、地域の高齢者数名が(サロン)ホームを利用している。 ・空き室があれば、ショートステイやデイの利用が出来る体制を取っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>・民生委員やボランティアとの意見交換は常に行っている、山家駐在所より1日/1回パトロール依頼、実施して頂いている。</p>	
43	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>・訪問理容サービスを利用している。 ・他のサービスを利用していない為、地域の他のケアマネジャーや、事業との話し合いはしていない。</p>	
44	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>・運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになり、情報交換や、協力関係が出来ている。</p>	
45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・月/2回の訪問診療を受け、緊急時主治医との連絡が取れる体制が出来ている。 ・入居時、家族と相談し、かかりつけ医での医療を継続して受けられる様、通院介助や、家族同行の受診を行っている。</p>	
46	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・専門病院への定期的受診を行っている。 ・専門病院の診療が必要な状況かどうか主治医の判断してもらい、家族に協力を得受診することもある。</p>	
47	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・看護師が常に常勤している。 ・夜間帯も常に連絡が取れる体制を整えており、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時には、スタッフが頻繁に見舞いに行っている。 ・管理者や、看護師が、医師や、家族と情報交換をしながら、認知症進行予防の為、早期退院できるようにしている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・看取り支援をしていることを、書面にて入居時説明をしている。 ・看取り支援を希望するときは、状態に変化がある度、家族、医師、管理者、看護師との話し合いを行い、方針を確認している。 ・本人への確認は取れていない。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・随時、家族の意思を確認し、常に家族の気持ちを記録に残し、支援に対する話し合いをチームで行い応援している。 ・看取り支援の勉強会をしている。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・アセスメントや、支援状況を記録したり、電話で情報を提供している。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
52 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・スタッフが採用されると、個人情報の取り扱いの宣誓書を交わしている。 ・言葉掛けや、対応に問題がある時、スタッフ間で注意しあったり、リーダーが指導している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者本人の気持ちを尊重し、自分で決断できる人は自分で決め、自由に出来るように支援している。 ・自己決定できない利用者で、表情や全身の反応でも、読み取る事が出来ないときは、スタッフで決めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・自己判断が出来る利用者は、本人の気持ちを大切に、本人に合わせた支援を行っている。自己決定が出来ず、全く意思疎通が出来ない利用者に対しては、スタッフが判断している状況にある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・寝たっきりや、自己判断出来ない利用者以外は洋服で選んだり、スタッフと一緒に選んでいる。 ・月/一回の訪問理容を受けている。 ・本人の好きなようにセットをして外出される方もおられる。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・時々、その日利用者の好みメニューを聞き、調理、配膳、方付けも利用者と一緒に、スタッフも同じテーブルを囲み、会話し、見守りをしながら楽しく食事をしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・利用者との会話の中や家族から本人の嗜好物を聞き出し、それらを食事メニューに取り入れ、楽しみながら食事が出来るような支援をしている。 ・アルコール類も希望があれば少量飲んで頂いている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・利用者の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導をし、トイレでの排泄が出来るようにしている。 ・入居後、オムツ除しを試み、極力オムツの使用を減らすようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・利用者一人ひとりの希望する時間に合わせた勤務体制が取れず、メンバーが時間決めていた状況である。 ・入浴拒否する利用者には無理強いせず、時間をおいたり、スタッフを替えて声かけを行っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・身体状況により、居室で午睡される。 ・昼夜逆転しない様に、日中活動を促している。 ・夜間は寝具調整、室温調整を適宜おこなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・一人ひとりの能力や、得意分野に応じ、日常的な仕事をお願いしている。 ・茶摘や、梅干、干し柿、漬物作りをスタッフと一緒にやり、出来上がったものを皆で美味しく食べている。 ・地域の行事参加や、散歩や、ドライブで外出の機会を増やし、気分転換を図るようにしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金の管理が出来る利用者は、お金を手持ちされている。時々、外出時、スタッフと一緒に欲しい物を選んで購入したり、おさい銭等に使われている。 ・安心感から、手持ちするだけの利用者もいる。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気がよい日は、身体レベルに合わせ、スタッフと散歩コースを選んで散歩したり、草花を取って、居室にかざっている。 ・ドライブや、買い物に行き、外食や、おやつを食べたり、お弁当を作って季節の花見にいっている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・スタッフの勤務を調整したり、家族の協力を得て、公共の交通機関を乗り継ぎ、舞踊鑑賞等にいっている。 ・県外へのドライブにもいっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が希望する時や、状態によっては家族との会話で落ち着ける様な時は、電話を掛けている。 ・家族への手紙のやりとりが出来る利用者は、手紙を書いて頂き、スタッフが宛名や住所を確認し投函している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・時間帯に関係なくいつでも訪問出来ることを入居時に家族に説明をしている。 ・訪問された時は、居室、リビングで時間が許す限り面談して頂いてる。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・資料は読んでも、勉強会はしておらず、正しく理解出来ないスタッフもいる。 ・身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		・勉強会を実施します。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中、玄関は鍵を掛けず、自由に出入り出来るようにしている。 ・利用者が外出する時は、声を掛けたり、後をついて行き見守りを重視している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日中は、ほとんどの利用者がリビングで過ごされる為、スタッフ間で言葉掛け行ない、必ず見守りが出来るようにしている。 ・夜間帯は巡視や排泄チェックで適宜状態確認を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・特に保管する様な事はしていない。 ・異食など注意が必要な利用者に対して見守りを重視している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ヒヤリハットを記録し、スタッフ間で、原因、対策を共有し、再発防止に努め、事故発生時は家族へ説明し、報告している。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・救急手当や蘇生術のマニュアルを小冊子にまとめ、全スタッフに配布し、ホームにも常備している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年 / 1回の避難訓練と緊急通報訓練、職員緊急連絡訓練を実施している。 ・夜間帯は夜勤者2名21時まで勤務1名 管理者の自宅(本陣の隣)に火災報知機ベル(連動)の設置、2名、本陣周辺200mに職員が3名いるので夜間帯の緊急避難は、計8名が対応する。 ・地区の行事がある事に協力を呼びかけている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	・家族への説明は行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日のバイタルチェック、状態観察を常に行い記録している。 異常時は、管理者、看護師に報告し、状態によっては、主治医に相談、病院受診をしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の内容、副作用の説明書を個々のファイルに綴じ、薬の変更時は申し送りノートに記載しスタッフが把握出来るようにしている。 ・服薬時は、本人に手渡したり、直接口腔内にいれ服薬確認をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・繊維を多く含む食材を利用したメニューや乳製品を提供している。適度な運動(体操やホーム内の歩行運動)や散歩を促し、水分補給を多めにすることで自然排便を促すようにしている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、自立している利用者には歯磨きの声掛けを行い、状態に応じて、スタッフが見守りをしたり、一部介助をしている。又嚥下障害のある利用者はハブラシで歯磨き後、ガーゼを使用し口腔洗浄を行なっている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事の摂取量をチェック表に記録している、又一日最低限の水分量を取れる様に、スタッフ間で確認し合っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・MRSA、ノロウイルスに関しては、施設内で勉強会を行い、予防や対策に努めている。 その他に関しては情報収集のみ行なっている。 家族の同意を得、利用者、スタッフ共にインフルエンザの予防接種を受けている。排便処理時の手袋の使用、石鹸での手洗い、手指消毒剤の使用を徹底している。		・インフルエンザ、疥癬、肝炎の勉強会を行い、最終的には、マニュアルを作成したい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・常に新鮮で安全(消費期限の確認)な食材を仕入れ、まな板、布巾、包丁等を、夜の間消毒を実施している。 厨房内(シンク、蛇口、ガスコンロ、調理台)は方付け後、毎日清掃している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関と表の居室前には一年中季節の花が咲き、観葉植物やベンチを置き、親しみやすい雰囲気作りを心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロアの飾りや、調度品は、家庭的な雰囲気になるように設置し、休めるスペースとなっている、新聞や雑誌はいつでも読めるような場所に置いている。 ゆず湯やバラ湯、菖蒲湯や鍋料理やラーメン流し等、季節感をとりいれている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ベランダには椅子やテーブルを置き、一人で過ごしたり、他の利用者やスタッフとくつろげるスペースを設けている。 ・和室も設け、利用者同士腰掛けて話をしたり、腰掛けて洗濯物をたたみをする場所にもなっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用した家具や調度品を持ち込んでもらい、本人や家族と一緒に配置し、見慣れた物に囲まれ安心して生活出来るようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・フロアは朝の掃除から始まり、定期的に換気をし、こまめに温度調節を行なっている。 湿度は冬季だけ加湿器で行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下やフロア、洗面所やトイレの壁側に全てに手摺を設置し、車椅子で使用出来るトイレや洗面所のスペースを設け、自立した生活が送れるようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・普段は何事もない物品や設備でも状態の変化により混乱し失敗が起きることがある。本人の不安を取り除くように勤めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・表の居室からは、一年中季節の花、裏の居室からは畑で作っている季節の野菜を見て楽しめる様な環境を作っている。 ・玄関先には、ベンチやテーブルを置き外気浴やおやつを食べたり、皆で一緒に歌を歌って楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- * 平成13年に家族会を立ち上げ、年間行事を家族会が中心に行なっている。
- * 地域の行事の参加、小学校や地域サロン、敬老会との交流、ホームでバザーを開催し、地域住民との交流、係りを大切にしたい。しかし昨年は新型インフルエンザまん延のため行事の数々が中止となりとても寂しい1年でありました。
- * ホームの畑で野菜を作ったり、地域の方からの提供もあり、毎日新鮮な季節の野菜を使っている。
- * 利用者と一緒に、漬物、梅干、干し柿を手作りし美味しく食べている。